



## やすらかに



牟礼小学校区見守り犬



雨の日も、風の日も、雪の日も、牟礼小学校正門入口の横断歩道前で子どもたちの安全な通学を見守り続けた萌樹ちゃん（メス16才9ヶ月）が11月4日に老衰により亡くなりました。16年間飼い主の山本恵さんと一緒に家から牟礼小学校入口までを子どもたちの登校時間に合わせて見守ってくれました。10月頃から山本さんの手押し車に乗っている萌樹ちゃんの姿を見かけるようになりました。学校までの道のりを歩くのが大変になってきたようでした。しかし、毎日外に出かけ、子どもたちの姿を見ることを楽しみにしていたようすです。人間の年齢にすればおよそ90歳位になるという獣医さんのお話からすれば、学校までの道のりはきつかったことでしょう。子どもたちの一日の始まりに元気なエネルギーを届け、何よりも交通安全に尽くした功績は大きいです。

山本さんからの励ましの声掛けや萌樹ちゃんとのふれ合いが、学校へ向かう子どもたちの力のひとつになっていたことと思います。卒業生の皆さんにとっても大切な思い出として心に残っていると思います。山本さんは、犬がいなくなった今も、子どもたちの見守りを続けてくださっています。

## 感謝



感謝の折り鶴

飯綱中学校1年3組では、放課後、教室や廊下の手すりなどの除菌を行ってくださるボランティアの皆さんに、感謝のメッセージを添えた折り鶴を贈っています。

「人のために自分たちができることを」という道徳の授業から発展したものです。

折り鶴を受け取ったボランティアさんは、思いもよらない心のこもったメッセージや鶴に感激し「ボランティア作業の励みになる」と大変好評です。

社会福祉協議会が行っている高齢者家庭へのおせち料理の配布の活動がコロナ禍のために中止となってしまいました。そこで飯網中学校美術部の皆さんがおせちの代わりとして、高齢者の皆さんにメッセージカードを送ることになりました。

美術部員の特技を生かしたデザインやイラストを描いたカードに気持ちを込めたメッセージを添えました。

メッセージカードは年賀状としても使えるように工夫されています。

## メッセージカード



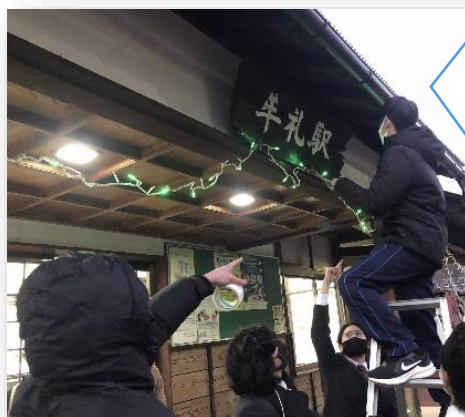
使い捨てカイロと共に添えられたメッセージカードが発送を待っています。

## 協力

コロナ禍、飯網町を元気つけるようと、クリスマスイルミネーションで地域を照らすイベントをZQ(ずく)が企画しました。その企画にあわせて飯網中学校手芸クラブがサンタクロースの帽子づくりで協力しました。

中学生は、サイズやデザインが示されると寸法をとり、裁断、縫製し、段取りよくスピード感のある作業で帽子づくりを進めていました。このサンタクロースの帽子は、今回のイベントで参加者が身に付けます。

また、光の彩りの中心となるイルミネーションボックス作りには、牟礼東児童クラブの児童が参加しました。イルミネーションボックスは、ボックスの中に照明器が入り、装飾された飾りが映し出される仕組みです。子どもたちは、色の付いた接着剤を、デザインしたところへ流し込みます。色を工夫したり、出来上がりの状態を想像したりしながら楽しく作業を行っていました。出来上がった飾りはイルミネーションボックスに付けられ、駅前の商店街を期間中照らします。



今年も北部高校生徒会と飯網中学校生徒会役員が協力して牟礼駅のクリスマスイルミネーションの飾りつけを行いました。

## 遠くに届け

11月25日（水）、牟礼小学校5年生は人権学習の一環として、風船にひまわりの種とメッセージを付けて遠くの人との交流を求めて空に飛ばしました。天候も良く青空に吸い込まれるように風船は小さくなっていきました。

翌日、上山田方面から「メッセージを受け取りました」と風船を見つけた人から心温まる文面のFAXが届いたそうです。昨日飛ばしたばかりの風船を見つけた方が、子どもたちの思いを受け止め、すぐに届けたのです。風船に託した思いが叶いました。また、長野市綿内小学校のグラウンドにも落下して、綿内小学校の2年生が見つけて、牟礼小に連絡が届きました。

風船を飛ばした日は、北から南に向けて強い風が吹いていましたので、長野市方面に風船が向かっていたものと思われます。返信をいただいた方と牟礼小5年生の心の交流が始まりました。



校庭で風船飛ばし

## 三水の起源

三水小学校の5年生は、毎年稲作の学習を行うために三水B&G海洋センターのすぐ下にある水田を借りています。学校より標高が少し下がるとはいえ、比較的標高の高い位置にあります。三水小学校のある丘は、周りに山はないの

で、自然に流れている川はありません。川はないのですが、水田をつくることができます。川のないところにも水田耕作ができるようにしてきた歴史をたどることが三水の名称の由来を知ることにつながります。

11月17日（火）三水小学校4年生は「芋川用水」に足を運んで、用水の歴史について詳しい近藤邦彦さんから学びました。「芋川用水」は、ほぼ等高線に沿うようにして三水の広い地域を潤しています。まず鳥居川からどのように水を取り入れているのか信濃町戸草にある取水口を見学しました。続いて大樋地籍の用水を見学しました。ここでは、「芋川用水」に取り入れた川の水に、用水流域の雨水が加わり増水して用水を壊すことのないよう、あらかじめ用水の一部を斑尾川へ流す工夫がしてあります。この大樋付近（標高約580m）の用水は、三水小学校（標高554m）より高い所を流れていることに驚かされます。等高線に沿ってゆっくり流れる「芋川用水」は陽の光をたくさん受け、温められることにより稲の成長を助け、美味しい米の収穫に繋がっていること等を学びました。



芋川用水鳥居川取水口

大樋（おおひの）地籍

